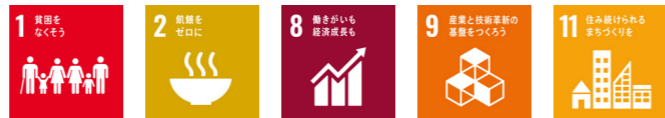


06

食の経済や 経営に関する学問



Goals

学びのキーワード

アグリビジネス、農産物の輸出入、流通システム、統計、情報収集・分析、マーケティング、国際情勢、食料問題、町おこし、地域経済・産業の活性化 など

study description

学問の内容

農作物や食品の経済学と国内農業の振興がテーマ

日用品から家電製品、趣味嗜好品、交通やさまざまなサービスまで、日々の暮らしの中ではモノやサービスが絶え間なく売買されています。このような流れを理解し、生産や流通、消費などひとつひとつの活動について研究する学問が「経済学」です。

経済学の中でも農業によって生み出される野菜や穀物、果物や畜産物といった農産物の価値や動きに関する学びを「農業経済学」といいます。この学問には、食料自給率を高め、国内農業を保護・育成する政策といったテーマも含まれます。

この学問の必要性

さまざまな課題を抱える日本の「農業経済」

わが国においては、「農業経済」に関連する社会的課題がいくつも存在します。

1つ目は、食料の国内自給率を一定に保つために、海外の輸入品に頼らずにすむ生産体制を確立する必要があること。農林水産省によると、2022年度の食料自給率*は38%。カナダ221%、アメリカ115%、ドイツ84%と比較すると、日本の食料自給率が先進国の中で最低水準であることがわかります。

*出典：農林水産省 令和4年度「諸外国・地域の食料自給率等について」①我が国と諸外国の食料自給率(カロリーベース試算値)



食料自給率については、2013年以降大きな議論となったTPP(環太平洋パートナーシップ協定)への参加、施行も関わっています。貿易自由化によって価格の安い海外農産物の輸入が進むと、国内農産物が海外産の価格に対抗できなくなるため、輸入は制限すべきとの意見もあります。生産規模を拡大し、機械化を進めれば生産性は上がると思われがちですが、国土の狭い日本では現実的な解決法とはいえません。

そこで、競争力を高めるブランド農産物の開発や、流通システムの見直しによって海外品に対抗しようとする農業経営の新たな取り組みが始まっています。無農薬栽培や有機栽培といった手法は、価格ではなく品質で魅力を伝えるブランド農産物の代表例。食の安全性への不安が高まり、消費者が高価でも良質のものを求めつつあることもブランド農産物の台頭を支えています。

2つ目の課題は、農家が国からの補助金などの支援策に頼らず、自立した農業経営を実現すること。農業は人々の命を支える

重要な仕事ですが、生産者の高齢化と担い手の減少により放置されている耕作地もたくさんあります。そうした中、日本の農業を活性化するため、政府や地方自治体は新規就農者を増やすためのさまざまな支援策を打ち出しています。

3つ目の課題としては、必要なときに必要な農産物を確実に供給すること。現在は物流技術の向上により、遠隔地からでも鮮度を保ったまま短時間で作物が輸送できるようになりました。このため従来の流通ルートの見直しが進められており、生産者から消費者に届くまでの中間業者を可能な限り減らし、コストの削減と、短時間での商品供給を実現した産地直送の販売なども盛んになっています。新たな流通システムを構築していくことも、農業経済学を学ぶ意義となるでしょう。

さらに、世界に目を向け、食糧問題に対応し、開発援助に関わることも農業経済学に求められる領域です。開発途上国では、人口増加が食糧問題を引き起こし、国際的

な視野で農業経済を考える必要性が高まっています。農地開発のために周辺環境の保護を度外視した森林伐採などが進み、かえって生産力が低下、食糧不足がさらに悪化するというケースも見られます。これに対し、環境保護と食料の安定供給を両立できる農地開発を行い、着実に経済発展を実現していけるようサポートすることが、現状の課題となります。

大学での学び

幅広い視野をもって 社会の動向を検証する

農業経済学は、農家が抱える諸問題に対して経済的な観点から解決方法を探ったり、食料のより望ましい流通システムの考察を行ったりします。そのため、農業に起因する社会問題などに対して高い感度で問題意識をもつことが必要です。農業の現状を知ることはもちろんのこと、農業を取り巻く社会現象を自分の目で確かめ、問題点を見つけ、経済学を中心とした視点で解決策を探っていくことがこの学問の中心となります。

さらに農作物の流通の仕組みや食品産業の構造といった基本的な知識を身につけていくことが、学びのカギになります。市場調査や農業経営のデータ分析にあたっては、情報収集能力や分析能力、数学や統計学なども活用。生産実績の分析や、農業経営者の財務分析なども学びます。

農業による国際支援をめざす学生は、各国・各地域社会の食料事情や農地開発と環境への影響などを把握したうえで、貿易のルールや農業開発のあり方なども学びます。

座学だけでなく、農地での体験実習、農村や市場での調査実習など、実態を肌



農学系にありながら、社会科学系の色彩の濃い学科が多い農業経済学分野。合格者の学力は入試年度によって少し変化はあるが、志願者や倍率は安定している。基本的分野として学ぶのは経済学や統計学などであり、農学系統の他の分野に比べて数学をしっかり学ぶことが入試や入

で感じることも必要です。

資格や進路

流通改革や経営指導などで 農業の活性化に貢献

農業経済学を学んだ学生は、食品メーカー、商社など、農業の知識と技術を生かせる企業への就職が目立ちます。無農薬栽培などによる高品質な農作物の開発や、消費者ニーズに迅速に対応する流通網の構築、産地と消費地を直接結ぶ販売スタイルの模索など、流通改革に携わる人もいます。より直接的に農業に関わる進路としては、農協(JA)の職員や、農家に農業技術の指導や経営指導を行う「普及指導員」という国家資格をもった、自治体職員の道も選択肢として存在します。

また、経済学や経営学の知識を生かして、金融業で活躍する可能性も広がるほか、農業経済分野を集中して学んだ経験は、多様な経済分野で応用できます。

こんな人に向いています!

フードビジネスへの興味や 農業を守る意志が大切

この分野は、まずは「食」に関する社会の動きを知りたい、国際的な視点から、法やルールを学びたい、という人に向いているといえます。また、大学卒業後に就農をめざしている人は、その経営が学べるという点でもメリットが大きい分野でしょう。もちろん就農しなくても、日本の農業や農村を元気にしたいという気持ちがある人には、とても適した学びといえます。

東京農業大学 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

食料に関わる問題を 幅広く学び、 国際社会に貢献

人類共通の課題として提起されている食料・環境・エネルギー・経済成長・人口・情報などの各問題を地球規模の視野から幅広く学んでいきます。地球規模の問題に対処して持続可能な社会を実現するために、自然科学系の科目のみならず、経済学・経営学を中心とした社会科学系の科目を学ぶことで、高度な意思決定を行うことのできる人材を育てています。

授業Pick up

アグリビジネス実地研修(一)(二) 2年次選択必修

食料の生産・流通・加工等、農業・食品関連のビジネスの実践的な知識を体得するため、2年次の選択必修科目として現地研修に参加可能。国内は5~8プログラムで10日間前後、海外はフィリピン、インドネシアで10日~2週間。本学卒業生が経営する企業や農場などを中心に多様な研修を行います。

主な設置大学と学部

- | | |
|----|--------------------|
| 国立 | 北海道大学 農学部 |
| | 東北大学 農学部 |
| | 筑波大学 生命環境学群 |
| | 宇都宮大学 農学部 |
| | 千葉大学 園芸学部 |
| | 東京大学 農学部 |
| | 京都大学 農学部 |
| | 神戸大学 農学部 |
| | 九州大学 農学部 |
| | 拓殖大学 国際学部 |
| 私立 | 東京聖栄大学 健康栄養学部 |
| | 東京農業大学 国際食料情報学部 |
| | 東京農業大学 生物産業学部 |
| | 日本大学 生物資源科学部 |
| | 日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 |
| | 明治大学 農学部 |
| | 近畿大学 国際学部 |
| | 龍谷大学 農学部 |
| | 摂南大学 農学部 |
| | など |

*2025年度入試の大学名、学部名です。